

# \* 令和3年度「学びの变革」学習指導案 \*

- 「Unit5」 Japanese Summer Festival～夏休み思い出グランプリ～（英語科）  
P. 2－P. 8
- 「Unit4」 Homestay in the United States～This is Japanese style!～（英語科）  
P. 9－P. 15
- 「一人一人が輝く行事に向けて」～これからのクラスの行動目標～（特別活動）  
P. 16－P. 21
- 「B衣食住の生活」日比崎防衛隊 被災地の食を支えよう！～被災地に本当に必要な非常食とは？～（家庭科）  
P. 22－P. 29
- 「短歌に親しむ/短歌を味わう」～自分達の短歌を飾り，みんなに見てもらおう！  
～（国語科）  
P. 30－P. 34
- 「合唱」～仲間とともに最高の合唱を創るには～（音楽科）  
P. 35－P. 40
- 「動物の行動のしくみ」～反応速度は鍛えたら速くなるか分析しよう～（理科）  
P. 41－P. 46
- 「方程式」一次方程式の利用～日常の中にある未知数の値を効率的に求めるにはどうすればよいだろう？～（数学科）  
P. 47－P. 53
- 「現代社会の見方・考え方」～昨年を超える赤船祭にするためにはどうすればよい  
か～（社会科）  
P. 54－P. 60

## Unit5 Japanese Summer Festival ～夏休み思い出グランプリ(想像可)～

本単元で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 12:55～13:45
- 2 学年 第1学年1組 (男子18名 女子17名 合計35名)
- 3 場所 新館1F 1年1組教室
- 4 単元について

### ○ 教材観

本単元では、単元を終了した後の生徒の姿として「夏休みの思い出をALTやクラスメイトに紹介する文を書くことができる」を設定し、言語材料を学ぶ中で自分の体験について簡単な文章を書くことが出来る事を目標とする。また、単元のはじめと終わりに同じ課題に挑戦し、その変容を見とることで生徒が単元の中で自身の成長を実感できる事を目指している。言語材料は前置詞(名詞の後置修飾を含む)、動名詞、一般動詞とbe動詞の過去形を扱う。これらの材料を組み合わせることで、自身が体験したことについて叙述することが出来るため、最終的には単元を貫く課題を達成できるように段階を追って学習していく。本単元では、学習指導要領における目標(5)書くことア「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。」を指導することと位置付ける。

### ○ 生徒観

本学級の生徒は、英語の学習に意欲的な生徒が多く、アンケートで「英語の授業は楽しいか」という質問に対し84.3%の生徒が肯定的な回答をしている。授業中にも積極的に質問をする姿や、自分の考えをクラスメイトと共有し確認し合う姿が見られる。生徒たちは小学校から英語で挨拶や自己紹介など簡単な会話をする活動に慣れ親しんでいるため英語を話すことに抵抗感は強くないが、中学校からの文法や正確性に重きを置いた文章を書くことに苦手意識を持っている生徒が少なからずいる。このことは「英語を書くことに自信はあるか」という質問に対して否定的な回答をした生徒が43.9%いたことから読み取れる。

### ○ 指導観

本単元で設定されている言語材料については、小学校ですでに触れているものではあるが、特に動名詞と過去形については動詞の形を変化させて用いる表現であり、難易度が高いため、繰り返し言語活動で使用させ、その形に慣れさせていく必要がある。いずれも物事について叙述するためには必須の表現であるため、最終的には教科書本文でMegが行なっているスピーチをモデルとしながら生徒自信の身近な体験について、自信の感想も含めて短い文章が書けることを目標とさせたい。書くことに苦手意識を感じている生徒に対する手立てとして、言語材料で扱う表現に対して十分に音声で慣れ親しんでから文を書く活動に取り組むことや、生徒が書いた作品に対するルーブリックを示しておくことで、生徒が文を書く際に何に注意して取り組めば良いのかを提示できるように留意する。また、生徒間でアドバイスを行う事で活動中にも生徒一人一人に対して細かなフィードバックが与えられる事を目指す。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出の自粛のため、夏休みの思い出に何を紹介すればいいのか困る生徒がいるため、実際の思い出に限らず、「こんなことがしたかった」「できていたらよかったな」と言った想像の思い出であっても良いこととした。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 単元目標

○ 書くこと ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

7 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に向かう態度
<p>&lt;知識&gt; 前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いた文の理解をもとに, 好きなことや得意なこと, 体験したことなどについて書く技能を身につけている。</p>	<p>自分の事をよりよく知ってもらうために, 好きなことや得意なこと, 体験したことなどについて, 簡単な語句や文を用いて書いている。</p>	<p>自分の事をよりよく知ってもらうために, 好きな事や得意な事, 体験したことなどについて, 簡単な語句を用いて書こうとしている。</p>

8 指導計画 (全 10 時間)

過程	次	学習内容 (時数)	観 点			評 価	
			知 技	思 表 判	主 態	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	既習事項で課題をどの程度達成できるのか把握し, 今後の学習の見通しを持つ。 (1 時間)	○			既習事項を習得している。	活動の観察
	<p><b>本質的な問い</b> 人の印象に残る文章とはどのようなものだろう。</p> <p><b>単元を貫く問い (探究課題の萌芽)</b> 夏休み思い出グランプリをしよう! (想像可)</p>						
情報収集	2	前置詞を用いた文の形・意味・用法の理解 (1 時間)	○			ア 前置詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	知識・技能 [ペーパーテスト]
	3	本文内容理解 (1 時間)	○			ア 前置詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	知識・技能 [ペーパーテスト]
	4	like[enjoy] …ing, be good at …ing を用いた文の形・意味・用法の理解 (1 時間)	○			ア like[enjoy] …ing, be good at …ing を用いた文の形・意味・用法を理解している。	知識・技能 [ペーパーテスト]

情報収集	5	本文内容理解 自己表現活動 (1時間)	○	◎	ア like[enjoy] …ing, be good at …ing を用いた文の形・意味・用法を理解している。 イ 自分の事をよりよく知ってもらうために、好きなことや得意なこと、体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて書いている。	知識・技能 [ペーパーテスト] 思考・表現・判断 [活動の観察]
	6	動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法の理解 (1時間)	○		ア 動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	知識・技能 [ペーパーテスト]
	7	本文内容理解 自己表現活動 (1時間)	○	◎	ア 動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 イ 自分の事をよりよく知ってもらうために、好きなことや得意なこと、体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて書いている。	知識・技能 [ペーパーテスト] 思考・表現・判断 [活動の観察]
整理	8	学習してきた言語材料の定着 (1時間)	○		ア 前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	知識・技能 [ペーパーテスト] 思考・表現・判断 [活動の観察]
実行	9	学習してきた言語材料を使って夏休みの思い出を紹介する文を書く。 (1時間) [本時]	◎	○	ア 前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いた文の理解をもとに、好きなことや得意なこと、体験したことなどについて語順を意識しながら正しく書いている。	知識・技能 [ペーパーテスト] 思考・表現・判断 [活動の観察] 主体的に学ぶ態度 [ワークシート]
振り返り	10	生徒の作品からグランプリを選び、その共通点について話し合う。 単元の振り返りを行い、単元のはじめからの変容を見とる。 (1時間)		○ ◎	ウ 自分の事をよりよく知ってもらうために、好きな事や得意な事、体験したことなどについて、簡単な語句を用いて書こうとしている。	主体的に学ぶ態度 [振り返り]
<p>単元を貫く問いの終結</p> <p>夏休みの思い出を ALT やクラスメイトに紹介する文を書くことができる</p> <p>本質的な問いの終結 (予想)</p> <p>人の印象に残る文章とは、話の道筋が整っており、独創的な文章である。</p>						

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・語順を意識しながら、正しい文を書くことができるようになる。

### (2) 本時の評価規準

- ・前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いながら、夏休みに体験したこと（したかったこと）を書くことができる。[知識・技能]
- ・自分の事をよりよく知ってもらうために、好きな事や得意な事, 体験したことなどについて、簡単な語句を用いて書こうとしている。[主体的に学習に向かう態度]

### (3) 準備物

- ・パソコン ・テレビ ・ワークシート ・相互評価用スプレッドシート ・授業スライド

(4) 学習の流れ (8 時間目 / 全 9 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
<b>1 既習事項の確認。[10 分]</b>		
○前時までの活動の確認	◇既習事項を確認させる。 ◆ここでは文を書くことはせず、音声提示によって本単元で習ってきた言語材料や語彙を確認することで音声に慣れ親しむ事を目指す。	知識・技能 [ペーパーテスト]
<b>2 本時のねらいを確認する。[2 分]</b>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     ねらい                      語順を意識しながら、正しい文を書くことができるようになる。                 </div>		
<b>3 情報を整理・分析し、課題解決の見通しを持つ [15 分]</b>		
日本語で夏休みの思い出について <いつ><どこで><誰と> <何を><どうだった> の項目でメモを書く。  英語で文を話すとき(書くとき)の語順について推測を立てる。  自分の夏休みの思い出についてお互いに伝え合う活動をする。	◇分からない単語や表現があれば Chromebook を使って調べるように指導する。 ◇教科書の例文をもとに話すとき(書くとき)の語順について推測を立てる。  ◆1 の既習事項の確認で扱った、音声で慣れ親しんだ例文を用いる。	知識・技能 [ワークシート]
<b>4 課題解決をする。[15 分]</b>		
[10 分] 個人で夏休みの思い出を紹介する文章をワークシートの①に書く。 [5 分] グループでワークシートを交換し、お互いの文章を読み合い、ループリックを使い評価をしてスプレッドシートに記入する。	◇生徒同士で文頭の大文字や文末のピリオド、語順などを厳格に評価するように指導する。 ◇分からない単語や表現があれば Chromebook を使って調べるように指導する。ただし自力で英語の文章を書く技能を育てる観点から翻訳機能を使うことは禁止する。  ◆どうやってクラスメイトの文を評価すれば良いのかを明確にするために、評価の例をワークシート裏面に載せておく。	知識・技能 [ペーパーテスト] 思考・表現・判断 [活動の観察] 主体的に学ぶ態度 [ワークシート]

単元を  
書く問い

思考を  
促す問い

ICTの  
活用

予測される生徒の考え

**A評価** In summer vacation, I went to sea with my family. I'm good at swimming, so it was really fun. After we swam in the sea, we enjoyed BBQ at the beach. I want to go there next year again.

**B評価** I went to beach. We enjoyed swimming in the sea. It was really fun.

**7 本時を振り返り、次時につなげる。[7分]**

○振り返りを書く。

生徒の振り返りの例

- ・英語の文を書くときの語順に気をつけて、夏休みの思い出を書くことが出来た。
- ・友だちと評価し合ったので、注意するポイントが分かった。

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いながら、夏休みに体験したこと（したかったこと）を5文以上の英文で語順や語句を正確に書いている。
B（合格）	前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いながら、夏休みに体験したこと（したかったこと）を3～4文の英文で1～2個程度の間違ひはあるものの正確に書いている。
C（乗り越えさせたい実態）	前置詞, like[enjoy] …ing, be good at …ing, 動詞の過去形を用いながら、夏休みに体験したこと（したかったこと）を書けていない。

(5) 板書計画

<b>Unit5</b> 夏休み思い出グランプリ(想像可)	00:00	Tuesday, September twenty-first
<b>Task</b> 夏休みの思い出を紹介する文を書こう。		Sunny
<b>Today's goal</b>	<語順に気をつけよう!> Yesterday, I went to the summer festival with Asami, Josh, and Kaito. I ate a big candy apple. It was delicious. We enjoyed dancing there. I had a great time.	
相手に分かりやすい文で、夏休みの思い出を書くことが出来る。		
<b>Rules</b> - 4文以上に挑戦しよう - 前置詞, 動名詞, 過去形を使おう - 想像でもOK!		



# 「 Unit 4 」 Homestay in the United States

## ～ This is Japanese style! ～

### 本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力, 判断力, 表現力等 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日 時 令和3年9月21日 12:55 ～ 13:45
- 2 学 年 第2学年1組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場 所 新館3F 2年1組教室
- 4 単元について

#### ○ 教材観

本単元は、生徒のアメリカでのホームステイについて扱う。本文では、ホームステイに臨む際のアドバイス、家庭内でのルール、ステイ中に感じた問題点、ホームステイでの体験談などについて触れられており、習慣や文化の異なる環境での生活やマナー、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせることができる。言語材料としては、have to ～, don't have to ～, must, must not, 動名詞を扱っており、しなければいけないことやルール、アドバイスなどを尋ねたり伝えたりすることができる。

本単元では、中学校学習指導要領外国語における「書くこと」の目標である「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」を指導することと位置づける。

#### ○ 生徒観

本学級の生徒は、明るくて前向きな生徒が多い。挙手して発言する生徒も多いが、ペアトークなどの活動ではどの生徒も積極的に活動に参加する。しかし、既習事項の定着が不十分のため、自信をもって発言する生徒は限られる。アンケート結果は以下の通りである。

質 問	肯定的評価
・英語は好きですか。	74%
・英語は得意ですか。	29%
・SNS で海外の有名人（スポーツ選手、アーティストなど）の英語の投稿を見たことがあります。	52%
・海外の有名人の投稿にコメントしてみたいと思います。	32%
・海外の有名人の投稿にコメントするなら、不安に思うことなどを教えてください。 <u>自分が言いたいことが外国の人にきちんと伝わるか不安。</u> （5件） 友達や他人に見られるのが嫌だ。（6件） 間違った単語を使ってしまい、相手が不快な気持ちにならないか不安。（1件） 言い合いになったりするかもしれないか不安。（1件） Googleなどで調べることができるので書ける。（1件）	

英語の授業は好きであるが、得意とは言えない生徒が多い。最近ではSNS上の翻訳機能などもあり、有名人の投稿を気軽に見ているようである。しかし、翻訳機能があっても書くことに不安を感じる生徒が多い。

○ 指導観

指導に当たっては、主体的な学びにつながるように、ICTを活用し、「ALTからのメールに返信する」という現実的で、生徒の生活に身近な活動を行うこととする。また、生徒の生活や体験に基づいて書くことができる内容にする。日本の文化やマナーを知らない人に正しく内容が伝わるように、読み手の気持ちやその人の背景にある文化まで考えた内容を考えさせたい。

さらに、基本文（既習事項）の活用を徹底させ、自信を持って言語活動に取り組みせたい。単元を通して行う基本文の小テストと、ウォーミングアップで行う1分間チャットで、基本文をもとに自分の考えや思いを英語にする時間を多く設け、既習事項の定着と自信をもって活動する姿を目指したい。本時では「自分の考えを伝えたい」と思わせるために、課題をいくつか用意し、自分で選択できるようにする。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 新しいALTに日本の習慣やマナーを伝えることができる。 (書くこと)

7 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① have to, 助動詞 must, 動名詞の特徴やきまりを理解している。 ② 自分のスケジュールや学校のルール, ホームステイについて, しなければならないことやアドバイスを考えて, have to, 助動詞 must, 動名詞などを用いて書く技能を身につけている。	① 日米の生活習慣や文化の違いを知り, とともに暮らすヒントを考えるために, 事実や書き手の気持ちを整理してホームステイの体験談の概要を捉えている。 ② 日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書いている。	① 日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

8 指導計画 (全11時間)

過程	次	学習内容 (時数)	観 点			評 価	
			知 技	思 判 表 表	態 度	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	日本に来た外国人の悩みを知ろう (1時間)			○	・日本に来る予定のALTに伝えるために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書こうとしている。(ウ①) (観察)	
<b>本質的な問い</b> 困っている人がいたらどうするのか。 <b>単元を貫く問い (探究課題の萌芽)</b> 日本の文化や風習を知らない人に教えよう。							
情報収集	2	have to, don't have to, must の形・意味・用法理解 (2時間)	○			・have to, 助動詞 must, 動名詞の特徴やきまりを理解している。 (ア①) (ワークシート・テスト)	【表現力】 (ワークシート)
	3	動名詞の形・意味・用法理解 (2時間)	○			・have to, 助動詞 must, 動名詞の特徴やきまりを理解している。 (ア①) (ワークシート・テスト)	【表現力】 (ワークシート)
整理・分析	4	本文内容理解 (4時間)		○		・日米の生活習慣や文化の違いを知り, とともに暮らすヒントを考えるために, 事実や書き手の気持ちを整理してホームステイの体験談の概要を捉えている。(イ①) (ワークシート・テスト)	【表現力】 【思考力・判断力・表現力等】 (ワークシート)

まとめ・創造・表現	5	本文の内容に対するアドバイスを考える (1時間)	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のスケジュールや学校のルール, ホームステイについて, しなければならないことやアドバイスを考えて, have to, 助動詞 must, 動名詞などを用いて書く技能を身につけている。(ア②)</li> <li>日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書こうとしている。(ウ①) (ワークシート)</li> </ul>	【コミュニケーション能力・主体性】【思考力・判断力・表現力等】 (観察)
実行・振り返り	6	日本の文化を知らない ALT に日本の文化を教える (2時間) 【本時1 / 2】		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書いている。(イ②) (Chromebook ドキュメント)</li> </ul>	【コミュニケーション能力・表現力】【思考力・判断力・表現力等】 (観察)
<b>単元を貫く問いの終結</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ have to や don't have to, 助動詞 must を使うと, ルールやマナーを教える。</li> <li>・ 外国にはいろいろな文化があるので, それぞれの考え方を尊重したい。</li> </ul>						

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

○日本の文化を知らない ALT に日本の文化を教えることができる。(書くこと)

### (2) 本時の評価規準

・日本に来る予定の外国人に知ってもらうために, 日本の習慣やマナーについて, 簡単な語句や文を用いて書いている。(イ②)

### (3) 準備物

・Chromebook ・テレビ ・ワークシート

### (4) 学習の流れ (12時間目 / 全12時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
<b>1 既習事項の確認。【5分】</b>		
○あいさつ ○Warm up 【1 minute chat】	◇既習事項を活用させながら, 1分間チャットに取り組ませる。 ◆基本文シートや Word Bank を参考にさせる。 ◇次回につながるように, わからなかった表現を全体でシェアさせる。	

<b>2 本時の学習課題を設定する。[5分]</b>		
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">導入の工夫</div> <p>○オリンピック選手などが日本の文化に困ったエピソードを紹介する。</p>	<p>◇実際の SNS の投稿を紹介し、何に困ったのか、どんなアドバイスをしたか確認する。</p>	
<p>学習課題</p> <p>日本の文化や風習を知らない人に教えよう。</p>		
<b>3 本時のねらいを確認する。[1分]</b>		
<p>○ねらいを確認する。</p>		
<p>ねらい</p> <p>日本の文化を知らない ALT に日本の文化を教えることができる。</p>		
<b>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]</b>		
<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">ICT の活用</div> <p>○ALT からのメールを確認する。(5種類)</p> <p>○アイデアを整理させる。</p> <p>○アイデアを基に英文を考える。</p>	<p>◇前時に配布したプリントで内容を確認する。</p> <p>◆英文のみ書かれているメールと、英文とその訳が書かれているメールを用意する。</p> <p>◇アイデアをまとめさせるために、マッピングを使用させる。また、「メールで返信する」という設定のため、メールの型も簡単に説明する。</p> <p>◇机間巡視を行い、アドバイスをする。</p> <p>◆基本文を参考にしよう声かけをする。</p>	<p>・日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて書いている。</p> <p>〔思考・判断・表現〕</p> <p>【観察・Chromebook ドキュメント】</p> <p>★思考力・判断力・表現力等</p> <p>【観察・Chromebook ドキュメント】</p>
<p>例 I</p> <p>Hello! I'm Lin.</p> <p>Next month, I will go to Japan to teach English. So, I'm interested in Japanese culture.</p> <p>In America, we usually give a tip at a restaurant. How much do I have to give a tip at Japanese restaurant? Please tell me.</p> <p>By for now,</p> <p>Lin</p>		

5 課題解決について発表をする。[10分]		
○グループ内で発表し、お互いの内容にアドバイスを する。	◇内容に関してアドバイスさせる。	
○わからない表現を全体で シェアする。	◇言いたいけれど表現が思いつかない文な どをシェアしたり、書いている良いフレー ーズを紹介したり、アドバイスをしたり する。	
6 学習のまとめをする。[10分]		
○友達からのアドバイスを 参考に、再度英文を書く。	◇グループ内での教え合いをするように促 す。	
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 Hi, Lin. I was surprised that you give a tip at a restaurant. In Japan, we don't have to give a tip at a restaurant. You must pay only the price of food. Also, we must not take food to your home at many Japanese restaurants. I hope you will enjoy you stay in Japan. See you.</p> <p>B評価 Hi, Lin. In Japan, we don't have to give a tip at a restaurant. See you.</p>		
7 本時を振り返り、次時につなげる。[4分]		
○振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家族のルールを教えることができた。</li> <li>・相手が知らないと思うので、理由も一緒に書くことができた。</li> <li>・基本文を参考にして、説明することができた。</li> </ul>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	既習事項や新出文法を使って、自分の体験したことや調べたことを加え、日本の文化を紹介する英文を5文以上書くことができる。
B（合格）	既習事項や新出文法を使って、日本の文化を紹介する英文を5文で書くことができる。
C（乗り越えさせたい実態）	日本の文化を紹介する英文を3文でなら書くことができる。

(5) 板書計画

**Unit** Unit 4 Homestay in the United States

**Task** 日本の文化や風習を知らない人に教えよう。

**Today's Goal** 日本の文化を知らないALTに日本の文化を教えることができる。

**Mail 1**

チップについて

**Mail 2**

お寺・神社の  
お参りの仕方

**Mail 3**

温泉の入り方

**Mail 4**

日本の学校につ  
いて

**Mail 5**

クリスマスにつ  
いて

# 「一人一人が輝く行事に向けて」 ～ これからのクラスの行動目標 ～

本題材で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 12:55～13:45
- 2 学年 第3学年3組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 本館3F 3年3組教室
- 4 単元について

## ○ 題材観

本題材は、学習指導要領特別活動〔学級活動〕内容(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」のウ「学校における多様な集団の生活の向上」にかかわるものである。

学校行事を通じて向上したリーダーとしての自覚や集団活動を、毎日の学校生活に置き換えて生活するには、クラスで課題をさぐり目標を見いだす必要がある。そのため、生徒の興味関心が高い学校行事を通じて、互いの良さを認め合いながら、より具体的に目標を設定し、次のステージへの成長、ゴールに向けての自分たちのありかたという「本質的な問い」につなげていきたい。この「本質的な問い」を生徒と一緒に1年かけて考えるために本題材を設定した。

## ○ 生徒観

本学級の生徒は、元気が良く授業や行事では、活発に取り組んでいる。学年全体での「ええじゃん」の取り組みでは、リーダーが主体的に活動し、自分たちで課題を解決しながら取り組み、「達成感」や「一体感」を感じることができた。しかし一方で、熱しやすく冷めやすいところもあり、「ええじゃん」で学んだことを自分たちの学校生活に置き換えて考えることが苦手な場面が見受けられる。

このことから、本題材における学級活動では、赤船祭や今後の学校生活まで広い視点でをどのようなことが必要か考え、合意形成を図りながら、実践する方法を設定、取組、検証、改善していきたい。

## ○ 指導観

指導に当たっては、昨年度から学校全体で行ってきた合意形成能力を重視した「話し合い」活動を行う。「話し合い」活動は、議長、副議長、書記2名から構成される議長団を結成し、生徒主体で行うものである。「話し合い」活動を通じて、3年生の学年としての長所、短所に気づき、その上で、生徒一人一人に、自己の個性を見つめさせる。生徒一人一人が、これからチャレンジする受験、そして中学校生活の最後を飾る卒業式に向け、どのように自己の課題に取り組んでいくか、考えを深めさせる。話し合いを通し、相手の意見を聞いて、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりして自分に合った解決方法を自分で決める意思決定を行うようにさせたい。

このように、クラスでの実態把握、目標設定、取組、検証、改善というマネジメントサイクルを回して学級づくりを進めていき、自分の考えを積極的に伝え合う話し合い活動を通して合意形成や意思決定を行うことのできる生徒の育成を図りたい。

行事のみならず、この先「何ができるか・何をしなければならないか」を考えさせる、視野を広げた「話し合い」活動を行っていきたい。



## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 単元目標

○生徒会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合うことができる。

## 7 評価規準

知識及び技能 (何をしているか、何ができるか)	思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち、行事や進路実現へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。	行事を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。

8 展開の過程

単元を貫く問い（探求課題の萌芽）：行事や学校生活を通して、何を学ぶか、どのようになりたいか。

過程	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
課題の設定	話し合い活動 (学級全員)	・結団式をもとに、赤船祭やサバプロを通してどう輝きたいか？	・行事だけでなく、広い視点で考えるようにする。	・話し合い活動が深まるよう自主的、自立的に準備を進めようとしている。(知・技) 【観察・ワークシート】
目標設定	話し合い活動 (学級全員) 【本時】	・「一人一人が輝く行事にしていけるために、何ができるか、何をしなければならないか」という議題のもと、2学期の活動で自分達はどう行動していくかを考える。	・日比崎中学校のこれまでの先輩達から受け継いだものや、自分達の良さ(新しい伝統)、次の世代にも伝えたいことを意識させるようにする。	・学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、行事へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。(知・技) 【観察・ジャムボード】
実践	赤船祭 (学級全員)	・赤船祭本番 ・サバプロ活動	・3年生として、後輩から憧れられるような姿を見せることを意識させるようにする。	・学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、互いに信頼し合って実践している。(思・判・表)【観察】
振り返り	話し合い活動 (学級全員)	・行事を通して得たもの、課題について考える。 ・赤船祭・サバプロを終えて、実際にやってみてどうだったのか、自分達の成長を確認する。	・生徒の活躍について、具体例を示して賞賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	行事を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。(学び・人間性) 【観察・ジャムボード】
今後に向けて	話し合い活動 (学級全員)	・身についた力は今後どのようなところで大切になるか・使っていきたいかを考える。	・長い先を見た広い視点で考えるようにする。	行事を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、進路実現等の諸問題の解決方法について理解している。(学び・人間性) 【観察・ジャムボード】

単元を貫く問いの終結：身についた力は今後どのようなところで大切になるか・使っていきたいか

9 本時の展開

(1) 本時の目標

議題「一人一人が輝く行事にしていくために、何ができるか・何をしなければならないのか」

(2) 本時の評価規準

- ・学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、文化祭へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。

(3) 準備物 ・TV・クロムブック

(4) 学習の流れ

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 (評価方法)
	1 始めの言葉 (副議長) 2 前回の振り返り		
活動の開始	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin-right: 5px; color: red; font-weight: bold;">単元を貫く問い</div> <div> <p>結団式をもとに、赤船祭やサバプロを通してどう輝きたいか？</p> <p>単元を貫く問い (探究課題の萌芽) : 行事や学校生活を通して、何を学ぶか、どのようになりたいか。</p> </div> </div> </div>		
	3 議題の発表・確認 (議長) 提案理由の説明 (議長)		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>提案理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いよいよ赤船祭・サバプロが動き出します。みんなが輝き、一人一人が成長するためには、今までの取り組みや日比中での伝統、先輩の姿など、いろいろな人の気持ちや姿を考えなくてははいけません。一人一人が輝くために、私たちはどう行動するのか、いろいろな人の気持ちを考え、クラスの目標を考えましょう。</li> </ul> </div>			

<p style="text-align: center;">ICTの活用</p> <p style="text-align: center;">活動の展開</p> <p style="text-align: center;">思考を深めよう</p>	<p>4 話し合い活動</p> <p>前回の話し合い活動の内容を受けて、小グループや学級全体での話し合いを通して「一人一人が輝く行事にしていくために、何ができるか・何をしなければならないのか」を追求する。</p> <p>(議長団で進める。議長団は話し合いに参加せず、全体の様子を見る。必要な場合は、担任と打ち合わせ。)</p> <p><u>(1) 出し合う (10分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の考えをジャムボードに記入しながら、班で意見交流をする。</li> </ul> <p><u>(2) わかり合う (5分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャムボードに書いたことを他の班に説明する。</li> </ul> <p><u>(3) 比べ合う (10分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の班と同じ意見を見つけたり、異なる意見や疑問に思ったことに対して質問するなどジャムボードに書いてあることに対して、理解を深める。</li> </ul> <p><u>(4) まとめ合う (15分)</u></p> <p>話し合い活動で共有化された解決の方向性等を参考にして自分としての解決方法等を「合意形成」する。</p>	<p>◇必要に応じて、積極的に助言を与える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級生活の向上や諸問題の解決に関心を持ち、行事へ向けた活動に自主的、自立的に取り組もうとしている。(知・技)</li> </ul> <p>【観察・ジャムボード】</p>
<p style="text-align: center;">活動のまとめ</p>	<p>6, 決定事項の確認 (副議長)</p> <p>7, 自己評価・感想記入 (5分)</p> <p>8, 教師の話</p> <p>9, 終わりの言葉 (議長)</p>	<p>◇話し合いの流れを方向付けた発言や議長団の活動などを賞賛するとともに、実践へ向けて活動意欲を高めることができるように助言する。</p>	

(5) 話し合い活動での観察による評価のルーブリック

	レベル			
	1	2	3	4
つかむ	○自己の問題の状況や原因を把握できない。	○自己の問題の状況や原因を把握できている。	○キーワードをもとに、自己の問題の状況や原因を把握できている。	○キーワードをもとに、自己の実態に照らし合わせながら、問題の状況や原因を把握できている。
さぐる	○話し合い活動に意義を見出さない。	○ワークシートに書いてはいるが、発言しない。指名されて言う。	○自分の意見を理由と共にきちんと発言できる。	○自己の実態に照らし合わせて意見が言える。
みつける	○学級の意見に反応しない。	○学級の意見に反応する。 ○理由を述べることは難しいが、賛成や反対の意思を表示できる。	○学級の意見と自分の意見を比べながら、賛成意見や反対意見を言える。	○学級の意見と自己の意見を比べながら、理由を明確にして、賛成意見や反対意見を言える。 ○学級の意見を聞きながら、自己の考えを再検討できる。
きめる	○目標、解決方法を自己決定できない。	○目標、解決方法を自己決定できる。	○話し合いをもとに、目標、解決方法を自己決定する。	○話し合いをもとに、少数意見や弱者の意も考慮しながら、自己決定を試みている。

(6) 板書計画

<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">まとめ合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">比べ合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">分かり合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">出し合う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">提案理由</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">議題</div> </div>
---

## 「B 衣食住の生活」 日比崎防衛隊 被災地の食を支えよう！ ～ 被災地に本当に必要な非常食とは？ ～

### 本題材で育成する資質・能力

(教科) 生活の自立に必要な食についての理解 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 14:00～14:50
- 2 学年 第1学年2組 (男子18名 女子17名 合計35名)
- 3 場所 新館1F 1年2組教室
- 4 単元について

#### ○ 題材観

本題材は、中学校学習指導要領技術家庭家庭分野の内容「B 衣食住の生活」の、(3) 日常食の調理と地域の食文化 「ア (ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。」を取り扱うように設定している。

本題材は、日常多く用いられている食品の品質や見た目、表示などから食品の品質を見分けることができるとともに、目的や栄養、調理の手間などを考慮して、用途に応じた食品の選択ができるようになることをねらいとしている。

生徒の食生活を取り巻く環境は、近年大きく変化しており、食品加工技術や食品管理の進歩により、生徒の身の回りは、様々な食品があふれ、食品についての情報も多量になっている。それらの情報を正確に読み取り、自分の目的にあった商品を選択していく力を身につけ、よりよい食生活の実現につなげることが重要と考え、この題材を設定した。

#### ○ 生徒観

本学級の生徒に、食品についてのアンケートを実施した。(令和3年9月)

質問項目	肯定的評価
・食品を購入することがあるか。	88.3%
・家庭で食べている食品がどのような基準で選ばれているか知っている。	65.7%

食品を購入するときの基準 (複数回答可)		
1	値段	85.7%
2	見た目	82.9%
3	味	62.9%
4	鮮度	57.1%
5	季節感	28.6%
6	カロリー	20.0%
7	生産地	17.1%
8	食品添加物	14.3%

本学級の生徒のうち約90%が食品を購入することがあると回答した。しかし、家庭で食べる食品を購入するときの選ぶ基準について知っているという生徒は約65%に留まった。また、生徒自身が食品を購入するときの基準については、値段や見た目を重視している生徒が多く、生産地や食品添加物などを基準にしている生徒は20%未満と少なかった。この調査から、食品を購入する機会はあるものの食品を選択するために必要な情報を活用できていないことが分かった。食品を選択するときに活用すべき情報の読み取り方や、活用仕方について取り扱う必要性を感じた。

#### ○ 指導観

指導に当たっては、食品の表示から、食品の情報を読み取り、その情報をもとに食品を選択する力を身につけさせたい。その際に、目的、量、栄養、価格、保存や調理の方法などについても考え、自分で判断して選択しようとする態度を育てたい。

本時では、本校の総合的な学習で取り扱っている防災教育と絡め、生徒たちの主体性を引き出す課題を設定した。被災地の状況にあった食品を届けるという活動を通して、食品の表示を読み取り、目的に応じた食品を選択することができ、また表示の重要性を感じさせるために、以下のことに注意して指導したい。

- ① 課題を提示する際に実際あったニュースの映像を見て、現実味を持たせる。
- ② 食品の実物や写真を用意し、本物の表示を見て食品を選択させる。
- ③ グループや全体での意見交流の時間を設け、様々な考えに触れさせる。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 題材目標

○ 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできる。

【新学習指導要領B(3)ア(ア)】

## 7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常生活と関連付け、生鮮食品・加工食品の特徴や用途に応じた食品の選択について理解していると同時に、適切にできる。	・食品の選択について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい生活の実現に向けて、食品の選択について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の工夫し創造し、実践しようとしている。



8 指導計画（全5時間）

	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			知 技	思 判 表	主 体 的	評価規準	資質・能力 （評価方法）
課題 の 設 定	1	食品の種類 (1時間)	○			・日常生活と関連付け、食品の種類 について理解する。	【主体性】（観察）
<b>本質的な問い</b> 生活を豊かにする食品の選択とは？ <b>単元を貫く問い（探究課題の萌芽）</b> 被災地に本当に必要な非常食とはなんだろう？							
情報 集 集	整理・ 分 析	2	生鮮食品の特徴 (1時間)	○		・日常生活と関連付け、用途に応じ た生鮮食品の選択について理解し ているとともに、適切にできる。	【生活の自立に必要な食 についての理解】 (行動観察、ふりかえり、 ペーパーテスト)
		3	加工食品の特徴 (1時間)	○		・日常生活と関連付け、用途に応じ た加工食品の選択について理解し ているとともに、適切にできる。	【生活の自立に必要な食 についての理解】 (行動観察、ふりかえり、 ペーパーテスト)
		4	食品の表示 (1時間)	○		・日常生活と関連付け、表示から食 品の情報を読み取ることができる。	【生活の自立に必要な食 についての理解】 (行動観察、ふりかえり、 ペーパーテスト)
		5	食品の保存と食中 毒の防止 (1時間)	○		・食品の安全と衛生に留意した管 理について理解していると共に、適 切にできる。	【生活の自立に必要な食 についての理解】 (行動観察、ふりかえ り、ペーパーテスト)
まとめ・ 創 造 ・ 表 現	実行・ 振 り 返 り	6	食品の選択 ～日比崎防衛隊 被災地の食を支え よう！～ 【本時 1/1】 (1時間)		○	・食品の選択について、問題を見い だして課題を設定し、解決策を構想 し、実践・改善し、考察したことを 論理的に表現するなどして課題を 解決する力を身に付けている。 ・よりよい生活の実現に向けて、食 品の選択について課題の解決に主 体的に取り組んだり、振り返って改 善したりして、生活の工夫し創造 し、実践しようとしている。	【生活の自立に必 要な食についての 理解】 (ワークシート・ふ りかえり・ペーパー テスト) 【表現力、コミュニ ケーション能力】 (行動観察・ふりか えり)
<b>単元を貫く問いの終結</b> 被災地の状況に応じて、必要な非常食が異なる。状況を見極めて、それにあった非常食を選ぶためには食品の表示や調理方法などを踏まえて食品を選択するべきである。							

## 9 本時の展開

### 1) 本時の目標

○3つの被災地に非常食を届ける活動を通して、目的や用途に応じた食品の選択ができる判断力を育成する。

### (2) 本時の評価規準

・食品の選択について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

(思考・判断・表現)

・よりよい生活の実現に向けて、食品の選択について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活の工夫し創造し、実践しようとしている。

(主体的に学びに取り組む態度)

### (3) 準備物

・クロムブック ・モニター ・加工食品の表示 (3種) ・ミニホワイトボード ・ワークシート

(4) 学習の流れ (5 時間目 / 全 5 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
<b>1 本時の学習課題を設定する。[5分]</b>		
<div data-bbox="55 342 119 409" style="border: 1px solid red; padding: 2px;">導入の工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を知る。</li> </ul> <div data-bbox="236 555 1364 701" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">学習課題</p> <p style="text-align: center;">日比崎防衛隊 被災地の食を支えよう！ ～被災地に本当に必要な非常食とは何だろうか？～</p> </div>	<p>◇日本の災害が起こりやすい地域についての資料から尾道では災害が少ないことに気づかせ、被災地を助ける側としてどのような支援ができるか考えさせる。</p>	
<b>2 本時のねらいを確認する。[2分]</b>		
<div data-bbox="236 784 1364 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ねらい</p> <p style="text-align: center;">目的や用途に応じた食品を選択できる。</p> </div>		
<b>3 既習事項を確認する。[3分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品と加工食品の特徴を振り返る。</li> </ul>	<p>◇既習事項を確認させる。</p> <p>◆生徒の解答を確認し、実態把握をしておく。</p>	
<b>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[17分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で情報を整理する。</li> <li>グループで交流し、全体で確認する。</li> <li>グループで考えをまとめる。</li> </ul>	<p>◇生鮮食品と加工食品の特徴から支援物資に適しているのはどちらかを考えさせ、被災地に生鮮食品が支援物資として送られて負担になったニュースから加工食品が適していることを確認する。</p> <p>◇加工食品 3 種類についてそれぞれのメリット・デメリットを個人で考え、Jam ボードを使ってグループごとで意見をまとめさせる。</p> <p>◆加工食品の実物を用意し、その表示などをもとに考えさせる。</p> <p>◇3 つの条件の下に、それぞれの食品のメリット・デメリットを見て、被災地に送るのにふさわしいと思う食品を 1 つ選び、同じ食品を選んだ人の中で 3～4 人のグループを作って、ホワイトボードに意見をまとめる。</p> <p>◆教科書や今までのワークシートなどをもとに考えさせる。</p>	<p>★生活の自立に必要な食についての理解【ワークシート】</p> <p>★思考力・判断力・表現力【行動観察】</p>

思考を深め、学び合い

ICT の活用

小グループの活用

<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガスや水が復旧していない被災地では、調理をしたり、お湯を沸かしたりすることができないので、調理をせずに食べられる食品が望ましい。</li> <li>・調理済み食品は消費期限が短いので、食べる人が明確なときには望ましいが、大きな物資搬入施設に送ると消費期限が切れてしまう。</li> </ul> <p>B評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常食として一般的なので缶詰がいい。</li> </ul>		
<b>5 課題解決について発表し、吟味する。[10分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇質疑応答の時間をとり、各グループの意見について理解を深めさせる。必要に応じて補足する。</li> <li>◆教科書や本時までのワークシートなどを参考にさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★思考力・判断力・表現力【行動観察】</li> </ul>
<b>6 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ・振り返りを書く。</li> </ul>	<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて非常食を選ぶことで、本当に被災地で必要とされる食品を送ることができると分かった。食品を選択するときには、表示から食品の情報を知ることができると分かったのだからこの生活でも、食品を買うときには表示を見て、目的に合った食品が選択できるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★生活の自立に必要な食についての理解</li> <li>★表現力【ふりかえり】</li> </ul>

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	食品を選択するときは、食品の表示から情報を読み取ることが大切で、その情報をもとに目的や用途に応じた食品を選択できると分かった。普段の生活でも表示を見て食品を選択するようにしたい。
B（合格）	食品を選択するときは、食品の表示を見ると様々な情報を読み取ることができ、食品の選択ではその情報を活用して、用途に応じた食品を選択することができると分かった。
C（乗り越えさせたい実態）	食品を選択するときは、よく考えて考えないといけなかったことが分かった。

(5) 板書計画

**題材名** 衣食住の生活 **ねらい** 目的や用途に応じた食品を選択できる。

**学習課題** 日比崎防衛隊 被災地の食を支えよう！～被災地に本当に必要な非常食とは何だろう？～

生鮮食品

生鮮食品  
の特徴

被災地 A  
の条件

ホワイト  
ボード

被災地 B  
の条件

ホワイト  
ボード

被災地 C  
の条件

ホワイト  
ボード

加工食品

加工食品  
の特徴

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

## 「短歌に親しむ/短歌を味わう」

～自分達の短歌をイオンスタイルに飾り、みんなに見てもらおう！～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 思考力(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 14:00～14:50
- 2 学年 第2学年3組 (男子14名 女子17名 合計31名)
- 3 場所 新館2F 2年3組教室
- 4 単元について

## ○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年)の第2学年「C. 読むこと」の指導事項「エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。」を受けて、複数の短歌を観賞の観点を持って評価することで、短歌の表現の特徴や技法などによる効果を考えることを扱う。

『短歌に親しむ』は、歌人の栗木京子が五首の短歌を取り上げて、特徴や情景などについて解説した文章で、『短歌を味わう』では、六首の短歌を扱っている。『短歌に親しむ』で短歌についての知識や技法を学び、観賞の仕方を知る。それを活かして、『短歌を味わう』の六首について、観点を明確にして比較し、生徒自身でそれぞれの短歌の良さや特徴について考えることをねらいとして設定する。

## ○ 生徒観

本学級の生徒は、アンケートで次のように答えている。

	肯定的回答
国語の授業に満足している。	96%
自分の考えや意見を積極的に伝えることができる。	64%
友達と話合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりできる。	89%

以上の結果から、国語の授業に意欲的であることがわかる。授業では、登場人物の心情を考えるとや筆者の意見に対する自分の考えを書くなど、活動に集中して取り組んでいる。だが、自分の考えや意見を人に伝えることについて自信がない様子で、発表することに消極的な生徒が多い。

生徒たちは発問に対して真摯に取り組む、自分の考えを持っているが、班活動で活発に意見を交流し合い、さらに自分の考えを深めることができている。また、一人で深く考えることが苦手な生徒も、話し合いによって様々な意見を知ること、自分の考えをまとめることができている。

## ○ 指導観

指導に当たっては、短歌の基本的な知識やどのような情景が描写されているかを理解するだけにとどまらず、表現の工夫やその効果を考えさせていく。今回、六首の短歌の中から好きな短歌を一首選び、その短歌の魅力をグループごとにスライドにまとめて発表させる。自分が選んだ短歌とそれ以外の短歌を選んだグループの発表を、観点を明確にして比較させることで、短歌それぞれの特徴や表現の工夫、効果に気付かせる。また、短歌の魅力を考える際、個人で考えさせる時間を取りながら、jamボードを用いてたくさんの意見を出し、自身の考えを深めさせたい。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	表現力・コミュニケーション能力			主体性
レベル1		(書く・話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(書く・話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(書く・話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 単元目標

第2学年 2 内容〔思考力・判断力・表現力等〕より

○表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の思いや考えが伝わる短歌になるように工夫する。

【書く ウ】

○複数の短歌について、表現技法や情景描写の仕方など観点を明確にして比較し、表現の効果について考える。【読む エ】

○短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。【読む オ】

## 7 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌の表現技法について理解している</li> <li>五感に注目して、短歌がどのような情景を描写しているか理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の短歌について観点を明確にして比較し、表現の効果について考えようとしている。</li> <li>短歌を鑑賞して、理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の思いや考えが伝わるように工夫して短歌を作ろうとしている。</li> </ul>

## 8 指導計画（全5時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			知・技	思・判・表	態度	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	好きな短歌を一首選び、感想とその理由を書こう (1時間)	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌についての知識を理解している。(知・技)</li> <li>短歌に関心を持って、鑑賞しようとしている。(態度)</li> </ul>	【主体性】(ワークシート)
<b>本質的な問い</b> 言葉の楽しさとは何だろうか？							
<b>単元を貫く問い（探究課題の萌芽）</b> 自分達の短歌をイオンスタイルに飾り、みんなに見てもらおう！							
分析	2	「押し短歌」の魅力伝えて、“同担”を増やそう (2時間) 【本時1/2】	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌の特徴を知り、観点ごとに評価しようとしている。(知・技)</li> <li>短歌の表現の工夫やその効果について考え、他者と意見を交流して自分の考えを深めようとしている。(思・判・表)</li> </ul>	【コミュニケーション力】(話し合い) 【思考力】(ワークシート)
創造・表現	3	表現の効果を意識しながら、自分の思いが伝わるように短歌を作ろう (2時間)		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の効果について考えながら、短歌を作っている。(思・判・表)</li> <li>自分の思いや考えが伝わるように工夫しながら、短歌を作っている。(態度)</li> </ul>	【表現力】(ワークシート)
<b>単元を貫く問いの終結</b> 短歌の表現の工夫やその効果について理解し、それを活かして自分の思いを伝えられる短歌を作ることができる。							

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

○表現に注目して短歌を鑑賞し、その表現が読み手にどのような印象を与えるのか考えられる。



(2) 本時の評価規準

- ・自分が選んだ短歌の特徴を理解し、観点をもって評価しようとしている。(知・技)
- ・短歌の表現の工夫やそれによってどのような効果をもたらされるか考えている。(思・判・表)
- ・他者の考えを知り、短歌についての自分の考えを深めようとしている。(思・判・表)

(3) 準備物

- ・chrome book

(4) 学習の流れ (2時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
<b>1 既習事項の確認。[5分]</b>		
・前時に学んだ短歌の知識や着目する点について振り返る。	◇短歌の基礎知識や鑑賞するときの観点を確認する。	
<b>2 本時の学習課題を設定する。[5分]</b>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習課題                      選んだ短歌の魅力を表現に注目して考えよう。                 </div>	◇六首の短歌の中から好きな短歌を一首選ばせる。 ◇選んだ短歌ごとにグループに分ける。	
<b>3 本時のねらいを確認する。[2分]</b>		
ねらい 観点を明確にして、短歌を鑑賞し、表現の工夫やその効果を考える。		
<b>4 情報を整理・分析する。[20分]</b>		
・選んだ短歌の魅力を観点を明確にして、個人で考えさせる。  ・選んだ短歌ごとに小人数班になり、自分の考えを交流する。	◇短歌を選んだ理由や感じた魅力について、感覚的な答えにならないように、鑑賞をする際の観点を提示する。 ◇表現の工夫によって、どのような効果をもたらされるか、読み手はどのような印象を持つか考えさせる。 ◆その短歌がどのような短歌なのか情景をイメージさせる。  ◇5分間時間を取り、jam ボードの付箋を使って、選んだ短歌の魅力について自分の意見を書かせる。 ◇付箋に書かれた他の人の意見を見て、疑問点や共感したことについて話し合いをし、	・選んだ短歌の表現技法や情景を理解している。 [知・技] ・観点を明確にして短歌を鑑賞し、表現の効果について考えている [思・判・表] ★思考力(ワークシート)  ★コミュニケーション力(話し合い)

導入の工夫

単元を貫く問い

ICTの活用

思考を深める学び合い

	意見を深めさせる。 ◇選んだ短歌の魅力についていくつかまとめさせる。 ◆他者の意見を聞いて、自身の考えを深めさせる。	
<b>5 自分の考えや意見をまとめる。[13分]</b>		
・グループで出た意見をスライドにまとめる。	◇発表時には、黒板に選んだ短歌が書かれた模造紙を貼る予定のため、それを活用しても良いことを伝える。	
<p>予測される生徒の考え</p> <p>「のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ『まっすぐ?』, そうだ, どんどのぼれ」</p> <p>A評価 自転車でのぼり坂を進む親子が会話をしている情景だ。会話文があることで、情景がイメージしやすくなる効果がある。また、応答を地の文にすることで、「のぼり坂」をのぼるという意味だけでなく、「その子の生き方」への思いも重なっていると考えられる。</p> <p>B評価 自転車でのぼり坂を進む親子が会話をしている情景だ。子どもが親にまっすぐ進むのかと問いかけている。</p>		
<b>7 本時を振り返り, 次時につなげる。[5分]</b>		
○振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五感を意識して短歌を鑑賞することで、どのような情景かをよりイメージすることができた。</li> <li>・視覚に注目し、白と青の対照的なコントラストで、白鳥の孤独さを表現しているとわかった。</li> </ul>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	異なる短歌を比較し、観点を明確にして短歌を鑑賞して、表現の工夫やその効果を考えて評価することができる。
B（合格）	観点を明確にして短歌を鑑賞して、評価することができる。
C（乗り越えさせたい実態）	どんな短歌か理解することが出来ている。

(5) 板書計画

<p style="text-align: right;">單元名 短歌を味わう</p> <p style="text-align: right;">学習課題 選んだ短歌の魅力を表現に注目して考えよう!</p> <p style="text-align: right;">白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ</p> <p style="text-align: right;">不來方のお城の草に寝転びて空に吸はれし十五の心</p> <p style="text-align: right;">のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ?」, そうだ, どんどのぼれ</p> <p style="text-align: right;">ぽぽぽと秋の雲浮き子供らはどこか遠くへ遊びに行けり</p> <p style="text-align: right;">観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生</p> <p style="text-align: right;">ゼラチンの菓子をすくえばいま満ちる雨の匂いに包まれてひとり</p>
--

# 「合唱」 ～ 仲間とともに最高の合唱を創るには ～

本題材で育成する資質・能力

(学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 12:55～13:45
- 2 学年 第3学年1組 (男子16名 女子15名 合計31名)
- 3 場所 本館3F 音楽室・3年1組教室
- 4 単元について

## ○ 題材観

本題材は、中学校学習指導要領音楽(平成29年)の〔第2学年及び第3学年〕(1)「A表現」(1)ア「歌詞表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。」イ(ア)「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解すること。」を扱う。

今回題材として取り上げた曲は、例年10月に行われる尾道市中学校音楽コンクールでの自由曲として選曲したものである。今年度も開催中止ということになったが、生徒がこれまで学んできた技能を生かして、曲想を味わうことによって、それぞれの曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、思いや意図をもって創意工夫することと、自分の担当する声部と他の声部の役割を理解し、全体の響きとの関わりを理解して表現の工夫をしながら合わせて歌う能力を高めることをねらいとしている。

## ○ 生徒観

本学級の生徒は、合唱の授業では、パートリーダーを中心に協力する姿勢や、意欲的に学習に取り組む姿勢がみられる。以下のアンケートは9月上旬に本学級の生徒に実施したアンケートの結果である。

	あてあまる		肯定的	あてはまらない		否定的
	そう思う	やや		あまり	まったく	
①音楽の授業が好き	74.1%	25.9%	100%	0%	0%	0%
②歌うことが好き	51.9%	37%	88.9%	11.1%	0%	11.1%
③合唱することが好き	55.6%	29.6%	85.2%	14.8%	0%	14.8%
④合唱をするときに、歌詞の内容を味わっている	44.5%	33.3%	77.8%	22.2%	0%	22.2%
⑤歌詞(言葉)の発音や発声の仕方を工夫している	33.3%	55.6%	88.9%	11.1%	0%	11.1%
⑥歌うときに音符や休符の長さを意識して歌っている	48.2%	40.7%	88.9%	11.1%	0%	11.1%
⑦歌うときに音楽記号(強弱記号など)を意識している	66.7%	18.5%	85.2%	14.8%	0%	14.8%

この結果から、音楽の学習に対する意欲が高いことが分かる。歌を歌うことや合唱をするに対しても肯定的な評価が多数見られる。しかし、歌詞の内容を考えることに対してはあまり意識をせず歌っている様子が見られる。

これらの実態から、歌詞の意味をしっかりと考えることで、合唱する喜びを分かち合えるよう、ペア

やグループ活動を取り入れたり、電子機器を使用し客観的に自分達の合唱を聴いたりしながら、生徒に音楽表現の変化を感じ取らせたい。また、ホワイトボードやChromebookを有効活用し、友達の考えや感じ方を共有し、歌詞の内容をより深めていきたい。

○ 指導観

指導にあたっては、歌詞から伝わる思いや意図を汲み取り、曲にふさわしい表現の工夫を行う力をつけたい。この力を身につけさせる過程として、情報収集の場面で、曲想を感じ取らせ、歌詞が持っているメッセージを理解させる。整理・分析場面では、実際に歌いながふさわしい表現の工夫を行うため、ボイスレコーダーやiPadを使用し、客観的に自分達の歌声を聴き、模範演奏に近づけられるよう、意見の交流や歌いながら表現の工夫を行わせる。その際、個人思考では、書く活動を取り入れ自分の思いや意図をもたせる。表現の工夫が個人の物だけにならないように、拡大楽譜を用意し、全体で表現の工夫を統一させる。

また、本題材で取り扱う曲は卒業・進路選択を控える生徒たちに、この曲を通じて、自分の未来を、歌で繋げながら、学年合唱をする意味について興味関心を高めていきたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることが	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。

			できる。		
レベル4	自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。				

## 6 単元目標

- 全体の響きや各声部の役割，強弱の変化等を創意工夫して合わせて歌う技能を身につけている。  
【知識・技能】
- 曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて理解し，思いや意図をもっている。  
【思考・判断・表現】
- 歌詞の内容や曲想に関心をもち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

## 7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の響きや各声部の声などを聴きながら，役割を意識して歌うことができる。</li> <li>・曲の構成を理解した上で声質や響きを変えて歌うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容と曲想の違いを理解している。</li> <li>・曲想を感じ取り，音楽の構造を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望や勇気を与えてくれる歌詞と曲想を結びつけ，表現の工夫をして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>

## 8 指導計画（全7時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			知	思	主	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	楽曲を聴き，楽曲の雰囲気と歌詞を理解する。 （1時間）			○	・希望や勇気を与えてくれる歌詞と曲想を結びつけ，表現の工夫をして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	【主体性】（ワークシート）
<b>本質的な問い</b> この曲を通してみんなの想いをどうつなげるか。 <b>単元を貫く問い（探究課題の萌芽）</b> 仲間とともに最高の合唱を創るには・・・							
情報収集	2	曲の盛り上がりを意識しながらパート練習を行う。 （3時間） 【本時3／1】		○		・曲想を感じ取り，音楽の構造を理解している。	【主体性】（行動観察・ワークシート）
整理・分析	3	抑揚をつけるような歌い方を工夫する。 （1時間）		○		・歌詞の意味と強弱との関わりをかんがえる。	【主体性】（行動観察・ワークシート）

まとめ・創造・表現	4	歌詞の内容と曲想を結びつけ合唱を行う。 (1時間)	○	○	・歌詞の内容と曲想の違いを理解している。	【コミュニケーション能力】(行動観察・ワークシート)
実行・振り返り	5	パートの役割と楽曲の構成を理解して歌い方を工夫する。 (1時間)	○	○	・全体の響きや各声部の声などを聴きながら、役割を意識して歌うことができる。 ・ユニゾンと重なる所、追いかけて歌う所の声質や響きを変えて歌うことができる。	【コミュニケーション能力】(行動観察・ワークシート)

### 単元を貫く問いの終結

仲間を思いやり、一人一人が曲想を感じ取り、歌詞の内容を理解することで、表現する内容が豊かになり、一体感のある合唱ができる。

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・工夫しようと考えたことをもとにパート練習を通して曲に込められた思いを理解して表現する力を育てる。

### (2) 本時の評価規準

- ・歌詞の内容と曲想を理解し、工夫して表現している。【思考・判断・表現】

### (3) 準備物

- ・楽譜、ワークシート、ホワイトボード

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
<b>1 既習事項の確認。[3分]</b>		
既習曲を歌う 模範演奏を聴く	◇聴いてくれている人を感動させるためにはどう歌えばよいだろう。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           予測される生徒の考え            ・強弱記号に気を付けて歌う。・表情を柔らかくして歌う。・歌詞の内容を理解する         </div>		
<b>2 本時の学習課題を設定する。[3分]</b>		
本時の目標の確認		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           学習課題            工夫をもとに、曲に込められた思いを理解して、パート練習をしよう。         </div>		
	◇なぜこの曲を選んだか意図をつかませる。中学校時代の友達はかけがえのない存在だということを最大限意識させる。	

導入の工夫

単元を貫く問い

<b>3 本時のねらいを確認する。[3分]</b>		
	◇生徒の想いを聴きながら提示する。	
<p>ねらい</p> <p>曲想を感じ取りパート練習に取り組む。</p>		
<b>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[20分]</b>		
<p>歌詞の意味を考えふさわしい表現について考える。</p> <p>(パート練習)</p> <p>ソプラノ→3-1教室</p> <p>アルト→音楽準備室</p> <p>男子→音楽室</p>	<p>◇各声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し工夫して表現させる。</p> <p>◇パート練習しながらふさわしい表現の工夫を確認していく。</p> <p>◆歌詞と曲想が結びついていない場合は強弱記号を確認させる。</p>	<p>[観点]</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>★(評価方法)</p> <p>行動観察</p> <p>ワークシート</p>
<b>5 課題解決について発表をする。[10分]</b>		
<p>全体交流し、表現の工夫を一つにまとめる</p>		
<p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 ・「友。今、君が見上げる空はどんな色に見えていますか？」から「友。僕たちが見上げる空は、どこまでも続き輝いている。同じ空の下 どこかで僕たちはつながっている」で終わる歌詞なので歌詞のストーリー性を意識しながら歌いたい。</p> <p>・一人ではない。常に自分の周りには必ず支えてくれる人がいてからこそこの今がある。中学校時代の親友は大人になってもかわらない。色んな場面で応援してくれている人がいることを感じて歌う。</p> <p>B評価 ・「友」には、仲間を意識した歌詞が書かれている。</p> <p>・自分が思う仲間や大切な人への想いを込めて歌っていく。</p>		
<b>6 学習のまとめをする。[6分]</b>		
<p>全体で合唱をしてみる</p>	<p>◇表情や歌詞の内容について理解を深め、曲想をしっかり感じ取らせる。</p>	
<b>7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]</b>		
<p>振り返りを書く。</p>		
<p>生徒の振り返りの例—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の意味をしっかり理解し、曲のストーリー性を意識して歌う。</li> <li>・友だちを思いやることを忘れない。</li> <li>・この曲が自分たちの心を繋いでくれていることを感じる。</li> </ul>		

小の活用



ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	歌詞の意味を考え、表現記号との関連を整理し、積極的に意見を出したり歌唱表現を工夫したりできる。
B（合格）	歌詞の意味を考え、表現記号との関連を整理し、自分の意見を持ったり歌唱表現をしたりできる。
C（乗り越えさせたい実態）	歌詞の意味を考え、表現記号との関連を整理することができる。

（5）板書計画

<p><b>単元</b> 合唱</p> <p><b>学習課題</b></p> <p>仲間とともに最高の合唱を創るには…</p> <p><b>ねらい</b></p> <p>曲想を感じ取りパート練習に取り組もう。</p>	<p>拡大歌詞</p>	<p>生徒の予想解答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちへの想いを込める</li> <li>○空がつながっていていつもの光景を実感して歌う。</li> <li>○強弱とつなげるとは難しい。</li> </ul>
--	-------------	---



# 「動物の行動のしくみ」

## ～ 反応速度は鍛えたら速くなるか分析しよう ～

### 本単元で育成する資質・能力

(教科) 科学的な思考・表現 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 14:00～14:50
- 2 学年 第2学年2組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 本館館3F 2年2組教室
- 4 単元について

#### ○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領理科第2分野、(3) 生物の体のつくりとはたらき、ウ 動物の体のつくりと働き、(イ) 刺激と反応についての内容を受けて設定したものである。感覚器官としては目、耳などを取り上げ、それぞれの感覚器官が刺激を受け入れるつくりになっていることを理解させることがねらいである。刺激と反応に関しては、動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえることがねらいである。運動器官については、骨格と筋肉のはたらきによって運動が行われることを扱う。

#### ○ 生徒観

以下に本校で9月に実施した学習に関するアンケートの結果を示す。本学級の生徒は、理科学習に対して前向きに取り組んでいる。結果の分析や考察を文章でまとめることができる生徒は96.7%と高いが、調べたことをわかりやすく図やグラフにまとめることは少し苦手な生徒が多い。また、自分の考えを積極的に他人に伝えることが苦手な生徒が半数と非常に多いのが課題である。

#### アンケート結果

項目	内容	肯定的	否定的
1	理科の授業は好きである。	70 %	30 %
2	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	86.7%	13.3 %
3	授業では、結果からわかったことを考察して文章にまとめたりしています。	96.7%	3.3%
4	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	56.6 %	43.3 %

#### ○ 指導観

本指導に当たっては、中学校第2学年の「刺激と反応」という単元で授業を行う。工夫した点は、生徒がより意欲的に取り組めるように「オリンピックの陸上競技100m競争」を導入とした。また、学習内容がスポーツや日常生活など身近な生活との関わりがあることを実感できるような単元計画を作成した。

本時では反応速度を測定するアプリケーションを用いて、反応速度が練習をすれば鍛えられることを体験させ、刺激に反応する仕組みを理解させたい。さらに、以上のようなアンケートから明らかになった実態を踏まえ、グラフの記入の仕方を指導し、正しいグラフから考察させることで、自信をつけさせ、積極的に発表させたい。本校で育成する資質・能力である「表現力、コミュニケーション能力、主体性」を高めることもねらいとしている。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 単元目標

○ 動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえること。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	観察・実験の技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激と反応のしくみを理解し、各器官などについての知識を身につけている。</li> <li>・反射のはたらきを理解し、それらのしくみについての知識を身につけている。</li> <li>・繰り返しデータをとり、結果を処理することができる。</li> <li>・つかみとったものさしの長さから、「対応目もり」を使って反応時間を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺激に対するヒトの反応時間を調べる実験を通して、刺激と反応までの結果を覚器官、運動器官、中枢神経、感覚神経、運動神経などのしくみやはたらきと関連づけて考えることができる。</li> <li>・反応時間を調べる実験において、繰り返しデータをとる意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外界からの刺激に適切に反応するようすに関心をもち、刺激と反応のしくみを意欲的に探究しようとするとともに、自らの生活や体のしくみについて関連させてみようとする。</li> </ul>

8 指導計画（全8時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			知 技	思 判 表	態 度	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	様々な運動 (1時間)			◎	・ヒトや身の回りの動物の動きを観察し、感覚器官や体のしくみに興味を持つ。	【主体性】ノート、行動観察
<p>本質的な問い 動物の体のつくりとはたらきはどのようなになっているか。</p> <p>単元を貫く問いプロローグ 運動をするとき脳や筋肉はどんなしくみで、活動しているのか。</p>							
情報収集	2	感じ取るしくみ (2時間)	◎			・動物にはどのような感覚器官があり、それぞれどのような刺激を受け取っているか説明できる。	定期テスト
整理・分析	3	刺激を伝えたり反応したりするしくみ (3時間) 【本時2/3】		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトの反応時間を調べる実験を行い、その結果をわかりやすくまとめることができる。</li> <li>・感覚器官が受け取った刺激によって、ヒトの体にいろいろな反応が起こるしくみについて説明できる。</li> </ul>	【主体性】ワークシート 行動観察
まとめ・創造・表現	4	運動のしくみ (1時間)	◎			・手羽先のつくりを積極的に調べ、その結果をもとに、骨格と筋肉の関係や手足が動くしくみを理解する。	ワークシート
実行・振り返り	5	運動をするとき脳や筋肉はどんなしくみで、活動しているのか。 (1時間)		◎		自身の手足の動きを、骨格と筋肉の学習をもとに考察することができる。	【表現力・コミュニケーション能力】レポート
<p>単元を貫く問いの終結</p> <p>運動をするとき、 感覚器官→感覚神経→せきずい→脳→せきずい→運動神経→筋肉→骨が動く</p>							

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○ヒトの反応時間を調べる実験を行い、その結果をわかりやすくまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

・繰り返しデータをとり、結果を処理し、考察することができる。[思考・判断・表現]

(3) 準備物

・クロムブック

(4) 学習の流れ（4時間目／全8時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
<b>1 導入 [5分]</b>		
<div data-bbox="49 645 116 712" style="border: 1px solid red; padding: 2px;">導入の工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックの陸上男子1000mの動画を見て、選手は音に素早く反応していることを確認する。</li> <li>・生徒一人一人の刺激に対する反応速度をはかり、オリンピックの選手と自分たちの記録を比較する。</li> <li>・なぜオリンピックの選手が素早く反応できるか予想させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇トップレベルの選手は音が鳴った 0.14秒が基準で0.12秒だと好スタートで、0.16秒だと遅いとされることを確認する。</li> <li>◇クロムブックで反射神経テストを使って計る。やり方を確認し個人でやってみる。</li> <li>◆個別指導をする。</li> <li>◇自分たちの記録は 0.2～0.4 秒?くらいで、選手と比べると、とても遅いことを確認し、選手がなぜ速く反応できるのか疑問を持たせる。</li> <li>◇練習をすれば素早く刺激に反応できる可能性があることに気づかせる。</li> </ul>	<p>★主体性【行動観察】</p>
<b>2 本時の学習課題を設定する。[2分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を確認する。</li> </ul> <div data-bbox="236 1402 1366 1547" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 反応速度は練習を繰り返せば早くなるのか、実験をして考察しよう。</p> </div>		
<b>3 本時のねらいを確認する。[5分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目から光の刺激を受け取って、手が動くときの信号が伝わるしくみを確認する。</li> </ul>		<div data-bbox="236 1666 1366 1783" style="border: 3px double black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ねらい 同じ動作を繰り返すと反応が早くなるのか、実験結果を分析して考察できる。</p> </div>

思考を  
深め  
学習の  
学び

ホワイト  
ボード  
の活用

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[15分]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>反射神経テストを繰り返し行い、その結果から考察する。</li> <li>4人班で考察し合い、ホワイトボードに結果をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇初めは個人で実験、考察を行い、その後、4人班で考察をまとめる。</li> <li>◆グラフの書き方を全体指導、その後、個別指導を行う。</li> </ul>	<p>繰り返しデータをとり、結果を処理し、考察することができる。[思考・判断・表現]</p>
5 課題解決について発表をする。[5分]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>考察した内容を発表する。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 グラフから、初めの反応速度よりも練習後の方が、反応速度が速くなっているため、反応速度は練習を繰り返せば速くなる。</p> <p>B評価 反応速度は速くなる。</p> </div>	
6 学習のまとめをする。[15分]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ動作を繰り返すことで、刺激に対する反応は早くなることをまとめる。</li> <li>今回の実験では光に反応しているが、音に反応する場合は反応の速さはどうなるかを考えさせ、実際にやってみる。</li> <li>音に対する反応の方が速くなることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習課題のまとめを行い、ヒトは外界から刺激を受け取り、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応が起こっていることを理解させる。</li> <li>◇100m走では、音に反応している。音と光では光の方が速く進む。今では技術が発展しているため、スタートラインにライトを埋め込むこともできる。どちらが速く反応できるかやらせてみる。</li> <li>◇光は多くの刺激があるので、脳で必要な情報を処理するので遅くなること、音はシンプルな刺激なので脳が情報を整理しやすい分反応が速くなることを、説明する。</li> <li>◇反応は無限に速くなるわけではなく、限界があることを確認する。100m走では音になって0.1秒未満で動くこととフライングになることも確認する。</li> </ul>	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[3分]		
○振り返りを書く。		★主体性（ノート）
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>反応速度は練習を繰り返すことで速くなるのが分かった。プロの選手がどのような練習をしているのか調べてみたい。</li> </ul> </div>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	正しいグラフや表を作成し，反応速度テストを繰り返すことで，グラフの結果から，反応が速くなることを説明できる。
B（合格）	反応速度テストを繰り返すことで，グラフの結果から反応が速くなることを説明できる。
C（乗り越えさせたい実態）	反応の速さについてのグラフを作成できず，グラフの結果から考察ができない。

（5）板書計画

<b>単元名</b>	動物の行動のしくみ
<b>ねらい</b>	同じ動作を繰り返すと反応が早くなるのか，実験結果を分析して考察できる。
<b>学習課題</b>	反応速度は練習を繰り返せば早くなるのか，実験をして考察しよう
刺激と反応	意識して起こす反応・・・刺激を受けてから反応するまで時間がかかる。
<b>例</b>	光を見てボタンを押した。
刺激	→ 感覚器官（目） → 感覚神経 → 脳 → 脊髄 → 運動神経 → 運動器官（指）
まとめ	反応速度は練習を繰り返すことで速くなる。

ホワイトボード  
× 8

## 「方程式」1次方程式の利用

～日常の中にある未知数の値を効率的に求めるにはどうすればよいただろう?～

## 本単元で育成する資質・能力

(教科) 数学的技能・活用力 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 14:00～14:50
- 2 学年 第1学年3組 (男子18名 女子17名 合計35名)
- 3 場所 新館2F 1年3組教室
- 4 単元について

## ○ 教材観

本単元の「方程式」につながる学習内容として、小学校では、□や文字を使って、数量の関係を式に表し、逆算によってその値を求める学習をしている。しかし、数量の関係が複雑になると、算数の考え方だけでは難しくなり、新しい方法で解くことが必要になってくる。本単元では、既習の「文字と式」で学習したことを使い、方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解し、等式の性質を基にして一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。そして、それらを通して代数的な操作のよさを理解するとともに、一元一次方程式を具体的な場面で活用できるようにすることをねらいとしている。

本単元で学習したことが、第2学年では「連立方程式」、第3学年では「2次方程式」での解き方を考える基礎となるため、基礎・基本を定着と方程式のよさを感じさせることが重要である。

## ○ 生徒観

事前アンケートは以下のようになっている。

	肯定的評価
数学が好きだ。	85.7%
数学の授業では、友達と教えあうことで理解できたり、考えが深まったりすることがある。	100%
数学の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明するようにしている。	74.3%

本学級の生徒は、数学が好きな生徒が比較的多く、授業を意欲的に取り組む生徒が多い。友達と考えを交流したり、分からないところを教え合ったりすることで理解できるようになる生徒が多く、教え合いを積極的に行うことができている。一方で、授業で理由を考えたり、説明をしたりすることに課題がある。

また、数学に対して苦手意識を持つ生徒は、「計算が苦手だから」「計算が難しく、1問を解くのに時間がかかってしまうから」という理由を挙げている。その生徒の多くは、前単元の「文字と式」の学習で、文字に対する抵抗感を持っている。

## ○ 指導観

指導に当たっては、てんびんのシミュレーションを使って操作的な活動を取り入れ、方程式の意味を理解させたい。さらに、方程式を能率的に計算するための「移項」学習では、符号を変えて他方に移すことができる理由は、等式の性質が基になっていることを生徒が自分の言葉で説明できるようにしたい。また、具体的な事象を方程式を利用して解く学習では、身近な問題を提示することで、学習意欲を高めさせたい。そのため、本単元では、総合的な学習の時間で作成している職業新聞を掲示するためのレイアウトを方程式を利用して考えさせ、自分たちで掲示をすることで、数学が実生活で役立つことを実感させたい。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で (ミニホワイトボード等を使用して)	(話す speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		(話す tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		(話す talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 単元目標

- (1) 方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解することができる。
- (2) 等式の性質を使って、方程式を解くことができる。
- (3) 等式の性質を基にして、方程式を解く方法を考察し表現することができる。
- (4) 移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。
- (5) いろいろな方程式を解くことができる。
- (6) 方程式を具体的な場面で活用することができる。
- (7) 比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決したりすることができる。



7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。</li> <li>等式の性質と移項の意味を理解している。</li> <li>移項の考えを用いて方程式を解くことができる。</li> <li>事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。</li> <li>簡単な比例式を解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>等式の性質をもとにして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。</li> <li>方程式において、移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。</li> <li>具体的な場面の問題において、1次方程式を活用し、問題を解決することができる。</li> <li>具体的な場面の問題において、解を吟味して解答としてよいかどうかを判断することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方程式の必要性和意味を考えようとしている。</li> <li>正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討している。</li> <li>方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>

8 指導計画（全14時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			知 技	思 判 表	態 度	評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	数当てゲームで最初に決めた数を当てての方法を考えることを通して、方程式の必要性を理解する。 (1時間)		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考え、式や図を使って説明することができる。</li> <li>求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。</li> </ul>	【主体性】 (ワークシート)
情報収集	2	方程式とその解の意味を理解し、等式の性質を使って方程式を解く。 (2時間)	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>方程式とその解の意味を理解している。</li> <li>方程式の必要性和意味を考えようとしている。</li> <li>等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解くことができる。</li> <li>方程式を解く方法を、てんびんの操作と結び付けて考え、説明することができる。</li> </ul>	【表現力】 (ワークシート)

	3	移項の考えを使って方程式を解く。 (2時間)	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移項の意味を理解し、移項の考え方をを使って方程式を解くことができる。</li> <li>・等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見出し、説明することができる。</li> <li>・方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。</li> </ul>	<b>【数学的技能】</b> (ワークシート) (小テスト)		
整理・分析	4	いろいろな方程式を解く。 (3時間)	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かっこをふくむ方程式の解き方を理解し、その方程式を解くことができる。</li> <li>・係数に小数や分数をふくむ方程式の解き方を理解し、その方程式を解くことができる。</li> <li>・いろいろな方程式を既習内容を基にして効率的に解く方法がないか考えようとしている。</li> </ul>	<b>【主体性】</b> <b>【コミュニケーション能力】</b> (観察) (ワークシート)		
まとめ・創造・表現	5	身近な問題を方程式を利用して解く。 (4時間) <b>【本時1 / 4】</b>	○	○	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。</li> <li>・方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。</li> <li>・1次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。</li> <li>・解の吟味をすることができる。</li> <li>・方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。</li> <li>・方程式を活用した問題解決の過程を振り返ってその手順を検討しようとしている。</li> </ul>	<b>【数学的活用力】</b> <b>【表現力】</b> (ワークシート) (発表)
実行・振り返り	6	比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的な問題を解決する。 (2時間)	◎	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例式の意味とその性質を理解し、比例の性質を利用して文字の値を求めることができる。</li> <li>・比例式の性質を利用して、具体的な問題を解決することができる。</li> <li>・比例式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。</li> </ul>	<b>【主体性】</b> <b>【コミュニケーション能力】</b> (観察) (ワークシート)	
<b>単元を貫く問いの終結</b> 求めたい数量を文字で表し、等しい関係を方程式にし、それを解くことで求めることができる。									

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 具体的な事象の中から数量の関係をとりえ、1次方程式をつかって問題を解決することができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の評価規準

- ・具体的な事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。(知識・技能)
- ・1次方程式を利用して、具体的な問題を解決することができる。(思考・判断・表現)

(3) 準備物

- ・ワークシート, ホワイトボード, chromebook

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力【評価方法】
<b>1 既習事項の確認。[3分]</b>		
・スピード80をする。	◇既習事項を確認させる。 ◆生徒の解答を確認し、実態把握しておく。	
<b>2 本時の学習課題を設定する。[5分]</b>		
	◇総合で作成した職業新聞を掲示するために、どんなふうに、どんなことに気を付けて掲示したいか考えさせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題</p> <p>98cm×147cm の模造紙に 12 人分の職業新聞 (30cm×21cm) を掲示します。縦は縦の間隔、横は横の間隔をそれぞれ等しくなるようにします。このとき、縦、横の間隔をそれぞれ何 cm にすればよいですか？</p> </div>		
<b>3 本時のねらいを確認する。[5分]</b>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねらい</p> <p>職業新聞を掲示するために、方程式を利用してレイアウトを考えることができる。</p> </div>		
<b>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[17分]</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考える。</li> <li>・班で考える。 自分の考えを伝え合い、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇縦、横に何枚ずつ貼ることができるか考えさせる。</li> <li>◆Jam ボードのシートに職業新聞 1 2 枚分の枠を準備し、操作しながら並べ方を考えさせる。</li> <li>◇間隔の求め方を考えさせる。</li> <li>◆Jam ボードを使って、並べる活動を通して、間隔が何個あるか把握させる。</li> <li>◇何を文字で置いたらよいか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。 [知識・技能] (ワークシート, 観察)</li> </ul>

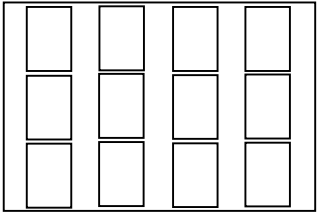
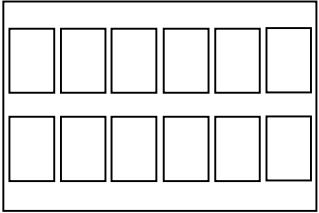
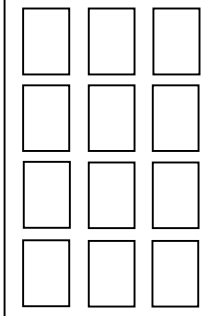
導入の工夫

単元を貫く問い

ICTの活用

<p>・班の意見を Jam ボードとホワイトボードにまとめる。</p>	<p>◇レイアウトは Jam ボード，その根拠となる考え方（方程式）はホワイトボードにまとめさせる。</p>	<p>・1次方程式を利用して，具体的な問題を解決することができる。 〔思考・判断・表現〕 (ホワイトボード，Jam ボード，発表) ★表現力 (ホワイトボード，Jam ボード，発表)</p>
-------------------------------------	--	---

**5 課題解決について発表をする。[10分]**

<p>・班の考えを発表する。</p>	<p>◇自分の考えと比較しながら発表を聞かせる。</p>	
<p>予測される生徒の考え</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">  <p>縦 <math>4a+3 \times 30=98</math> <math>a=2</math> 横 <math>5b+4 \times 21=147</math> <math>b=12.6</math> 縦の間隔は <u>2cm,</u> 横の間隔は <u>12.6cm</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">  <p>縦 <math>3a+2 \times 30=98</math> <math>a=\frac{38}{3}</math> 横 <math>7b+6 \times 21=147</math> <math>b=3</math> 縦の間隔は <u><math>\frac{38}{3}</math> cm,</u> 横の間隔は <u>3cm</u></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">  <p>縦 <math>5a+4 \times 30=147</math> <math>a=5.4</math> 横 <math>4b+3 \times 21=98</math> <math>b=8.75</math> 縦の間隔は <u>5.4cm,</u> 横の間隔は <u>8.75cm</u></p> </div> </div> <p>A評価 等しい数量関係をとらえ，方程式をつくることができ，縦の間隔と横の間隔を求めることができる。また，それを他者に説明することができる。</p> <p>B評価 等しい数量関係をとらえ，方程式をつくることができ，縦の間隔と横の間隔を求めることができる。</p>		

**6 学習のまとめをする。[5分]**

<p>・全体で確認する。</p>	<p>◇それぞれの班の考え方や説明の仕方の良かったところを確認する。 ◇方程式を使った考え方の良いところを考えさせる。</p>	
------------------	---	--

**7 本時を振り返り，次時につなげる。[5分]**

<p>○振り返りを書く。</p>	<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求めたい数量を文字で表し，等しい関係を方程式にすることで求めることができる。</li> <li>・方程式を使って解くことは，式をつくりやすいことや式をつくれれば，形式的に解を求められるところがよい。</li> </ul>
------------------	---

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	数量の関係を捉え、方程式をつくり問題に合った解答を導くことができる。また、それを他者に説明することができる。
B（合格）	数量の関係を捉え、方程式をつくり問題に合った解答を導くことができる。
C（乗り越えさせたい実態）	数量の関係を捉えることができていない。

（5）板書計画

**単元名** 方程式

**ねらい** 職業新聞を掲示するために、方程式を利用してレイアウトを考えることができる。

**学習課題**

98cm×147cmの模造紙に12人の職業新聞（30cm×21cm）を掲示します。縦は縦の間隔、横は横の間隔をそれぞれ等しくするようにします。このとき、縦、横の間隔をそれぞれ何cmにすればよいですか？

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

ホワイト  
ボード

# 「仲間とともに赤船祭を成功させよう ~現代社会の見方・考え方を通して~」 ~ 昨年を超える赤船祭にするためにはどうすればよいか ~

## 本単元で育成する資質・能力

(教科) 課題発見力, 調整力 (学校) 表現力, コミュニケーション能力, 主体性

- 1 日時 令和3年9月21日 12:55~13:45
- 2 学年 第3学年2組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 本館3F 3年2組教室
- 4 単元について

### ○ 教材観

本単元は、中学校社会科学学習指導要領の内容A(2)に該当する単元である。ここでは、「現代社会を捉える枠組み」として、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割を、多面的・多角的な考察と表現活動を通して学習することを目的としている。現代社会を捉え、考察し構想する際に働かせる、概念的な枠組みの基礎として、「対立と合意」「効率と公正」などがあること、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義や個人に求められる責任について、具体的な事例から理解させるように単元が設定されている。

### ○ 生徒観

本学級の生徒を対象に行ったアンケートの結果は次のとおりである。【学級(学年全体)】

質問	「よくあてはまる」の割合	否定的意見の割合
①自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	50.0% (52.4%)	10.7% (20.3%)
②生徒間で話し合う活動(ペア・グループ)では友達の意見を受け止め、自分の考えを伝えていますか。	53.6% (52.4%)	14.2% (15.4%)
③自分の考えや発表する場面では、自分の考えが伝わるように、資料や文章、話の組み立てなど工夫をして発表していますか。	25.0% (22.6%)	28.5% (25.0%)
④授業で与えられる課題を解決するために、まずは自分で考え、自分から取組んでいますか。	50.0% (38.1%)	10.7% (14.3%)
⑤各教科で学んだ知識を、他の教科で生かしながら、自分の考えをまとめたり、表現することができますか。	32.1% (31.0%)	21.4% (20.3%)

結果から、本学級および学年全体の傾向として次の2つのことが分かる。ひとつ目は、授業と他者との関わりへの積極性である。アンケート①、②、④の項目から、授業で与えられる課題に取組もうとする姿勢と、課題を解決するために他の生徒と意見交流をすることに前向きに考えている生徒が多いと分かる。意見を練り合う場面では、自分と違う意見にも耳を傾けることができる。一方で、アンケート③の項目にみられるように、自分が「なぜそのように考えるのか」や、「グループとしての意見」、「意見を集約したプロセス」などをアウトプットすることに苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。ふたつ目の傾向は、アンケート④にある、教科横断的な視点で学習に取り組んでいる生徒が少ないことである。教科で学んだ知識を他の教科に生かすことは、本校が「赤船祭・サバプロ」等の学校行事を核にして、カリキュラムマネジメントを進めていく上で必要な視点である。具体的な場面設定をするなど、意図的・計画的な指導が今後さらに必要であることが分かった。

○ 指導観

指導に当たっては、現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みに「対立と合意」「効率と公正」があることを知識としてまずは定着させたい。今後の公民的分野の学習（政治・経済・国際社会）を進める上で、これらの枠組みを用いて、生徒一人一人に価値判断をさせていくためである。

また、所属する集団や所属員に関わるトラブルについて、どのような決定の仕方が望ましいのかを話し合い、決定したことを「きまり」として作ることを通して、「対立」が起り、議論を通して「合意」に至る際、より少ない資源を使ってより大きな成果が得られるようにしているか（効率）、全員が参加して決めているか、特定の集団や一部の人に不利益にならないようにしているか（公正）など、所属する集団や個人と社会との関係、きまりの役割について考察・表現できるように工夫をしたい。そのために、本校の学校行事である「赤船祭」を課題として取り上げ、生徒達の議論した内容が実際の学校行事に生かされていくことを体感させて、他の教科の学習やこれからの実生活においても、現代社会の見方・考え方が働かせられるように指導をしていきたいと考えている。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 個人と社会との関係，社会生活における物事の決定の仕方，きまりの役割を理解し，多面的・多角的に考察・表現する活動を通して，身の回りの出来事や現代社会の課題を捉える際に「対立と合意」「効率と公正」の視点から判断し，課題の解決に向け，主体的に関わろうとする態度を養う。

7 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①自分が家族や地域社会などの社会集団に所属していることや，人間が社会的存在であることを理解している。 ②効率と公正の意味と，重要性について具体的な事例から理解している。	①決まりが必要な理由について，社会集団と個人の間を，対立と合意の視点から考察・表現している。 ②みんなが納得できる解決策の在り方について，対立と合意，効率と公正に着目して考察し，表現している。 ③ルールを見直す際の見直し方について，対立と合意，効率と公正に着目して考察・表現している。 ④社会生活における物事の決定の仕方，個人と社会との関係，きまりの役割について多面的・多角的に考察・表現している。	①社会集団における対立の存在に気づき，合意を目指すことが重要であることについて，自らの学習を振り返りながら，主体的に探ろうとしている。 ②身の回りの対立関係や問題点を捉え，課題解決のためにどうすればよいか，効率と公正の視点から，主体的に合意形成を図ろうとしている。

8 指導計画（全6時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点			評 価	
			知 技	思 判 表 表	態 度	評価規準	資質・能力 （評価方法）
課題の設定	1	社会集団の中で生きる私たち （1時間）	○		○	・自分が家族や地域社会などの社会集団に所属していることや，人間が社会的存在であることを理解している。（ア①） ・社会集団における対立の存在に気づき，合意を目指すことが重要であることについて，自らの学習を振り返りながら，主体的に探ろうとしている。（ウ①） <b>【Q】</b> 身の回りの「対立」を思い出してみよう。	課題発見力 主体性 （話し合いの様子）
		<b>本質的な問い</b> 身の回りにある対立関係や問題点を捉え，合意形成するにはどうすればよいだろうか。 <b>単元を貫く問い（探究課題の萌芽）</b> 赤船祭を昨年のもものよりも更に良くしていくためには，どうすればよいだろうか。					
情報収集	2	決まりを作る目的と方法 （1時間）		○		・決まりが必要な理由について，社会集団と個人の間を，対立と合意の視点から考察・表現している。（イ①） <b>【Q】</b> 決まりやルールはどうやって決めるのが良いでしょうか。	調整力 表現力 （記述内容）



	3	効率と公正 (1時間)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率と公正の意味と、重要性について具体的な事例から理解している。(ア②)</li> <li>・みんなが納得できる解決策の在り方について、対立と合意、効率と公正に着目して考察し、表現している。(イ②)</li> </ul> <p><b>【Q】</b> みんなが納得する解決策を作るために、どのような視点で考えればよいでしょうか。</p>	調整力 表現力 (記述内容)
整理・分析	4	決まりの評価と見直し (1時間)		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを見直す際の見直し方について、対立と合意、効率と公正に着目して考察・表現している。(イ③)</li> </ul> <p><b>【Q】</b> Google の会議では、発言をしない人は次から呼ばれなくなることにについてどのように考えますか。</p>	調整力, コミュニケーション能力 表現力 (記述内容) (話し合いの様子)
まとめ・創造・表現	5	仲間とともに赤船祭を成功させよう (1時間)【本時】	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活における物事の決定の仕方、個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察・表現している。(イ④)</li> <li>・身の回りの対立関係や問題点を捉え、課題解決するためにどうすればよいか、効率と公正の視点から、主体的に合意形成を図ろうとしている。(ウ②)</li> </ul> <p><b>【Q】</b> 赤船祭を昨年よりもさらに良くしていくためにはどうすればよいだろう。</p>	課題発見力, 調整力, コミュニケーション能力 主体性 (記述内容) (話し合いの様子)
実行・振り返り	6	単元のふりかえり (1時間)		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活における物事の決定の仕方、個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察・表現している。(イ④)</li> </ul>	課題発見力, 表現力 (パフォーマンス課題)

#### 単元を貫く問いの終結

赤船祭を昨年よりも良くしていくためには、話し合いの場面から、生徒一人一人が意見を発信し、少数意見にも耳を傾けて協議することが必要である。生徒の多様性を認め合い、行事の中に、生徒一人一人が活躍できる場を考えるなど、公正さの視点が必要だ。【公正の視点】

「コロナ対策」によって入場制限や接触制限などあることを理解した上で、利用できる資源を使って、何を省略・制限するべきか、どんな気持ちを大切にすべきかを話し合い、どうやったら行事のねらいが達成できるかを考えるなど効率の視点が必要だ。【効率の視点】

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 効率と公正の視点を通して、赤船祭をどのように運営したらよいか自分の意見を持つことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・社会生活における物事の決定の仕方、個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察・表現している。(イ④)
- ・身の回りの対立関係や問題点を捉え、課題解決するためにどうすればよいか、効率と公正の視点から、主体的に合意形成を図ろうとしている。(ウ②)

(3) 準備物

- ・ワークシート, jam ボード (chromebook), ホワイトボード

(4) 学習の流れ (5 時間目 / 全 6 時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 [観点] ★資質・能力 【評価方法】
<b>1 既習事項の確認。[3分]</b>		
①「効率と公正」の意味。 ②きまりを見直す時はどんな時か。		
<b>2 本時の学習課題を設定する。[5分]</b>		
③ 今年の赤船祭のダイジェスト映像を見た後、課題を提示する。	<div data-bbox="233 1249 1362 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習課題 今年の赤船祭を超える赤船祭にするためには、どうすればよいだろう。                 </div>	
<b>3 本時のねらいを確認する。[1分]</b>		
<div data-bbox="233 1435 1362 1525" style="border: 3px double black; padding: 5px;">                     ねらい 「効率」「公正」の視点を使って、学習課題の解決ができる。                 </div>		
<b>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[17分]</b>		
④ 今年の赤船祭の成果と課題を洗い出す。 ⑤ 今年の赤船祭をどのように変えていきたいか意見を自由に書き出す。 ⑥ ⑤の内容を「効率」「公正」どちらの視点で考えればよいか振り分ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ jam ボード使って班ごとに活動する。</li> <li>⑤の例 「練習時間をもっと増やしたい」 「こんな道具を使いたい」 「保護者が参観できるようにしたい」</li> <li>◆⑥の視点 <u>効率</u>…無駄や無理がないように資源を使い、全体の利益や成果につなげることができるか。 <u>公正</u>…手続き・機会・結果等で、不当に不利益を被る人がいないか。</li> </ul>	

導入の工夫

単元を貫く問い

ICTの活用

ホワイトボードの活用

5 課題解決について発表をする。[14分]		
⑦jamボードの内容の交流 ⑧できることとできないこととの協議 ⑨wボードの内容の発表	◆⑧班ごとにホワイトボードで優先度の順位づけをする。(効率:青, 公正:赤)	
6 学習のまとめをする。[5分]		
⑩まとめを書く。		<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>予測される生徒の考え</p> <p>A評価 赤船祭をよりよくしていく提案の中に、「効率」と「公正」の両方の視点があり、2つの視点の定義が明確である。</p> <p>B評価 赤船祭をよりよくしていく提案の中に、「効率」と「公正」のどちらかしかない。または、提案内容の視点があいまいである。</p> </div>
7 本時を振り返り,次時につなげる。[5分]		
⑪クラス内で合意形成する。 ⑫ふりかえりを書く。	◇クラスとして、どの班の意見を採用したいか、理由を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <p>・赤船祭をよりよくしていくためには、今までの内容の見直しが必要かどうか、まずは成果と課題を振り返ることが大切だと分かった。見直しをする時には「効率」と「公正」の視点で考え、一人一人の意見を大切にしながら話し合いを進めることが大切だと分かった。今日習ったこと(現代社会の見方・考え方)を、これからの赤船祭の練習や公民の授業で活用できるようにしたい。</p> </div>		

【パフォーマンス課題】

あなたは今年度、赤船祭実行委員をすることになりました。コロナ渦で行われる赤船祭は2回目で、去年は生徒会執行部の意向も聞き取りながら、開催されなくなった体育大会と文化祭を合体させ、保護者の参観を制限したり、規模を縮小して感染対策をした上で行事を行いました。行事が終わった後、生徒の中には「達成感」がある一方で、「もっとこうしたらよかった」という意見もあったようです。あなたはこれから赤船祭実行委員として、今年の赤船祭をどのようなものにするかクラスで話し合いを行った後、生徒会に結果を提案しなければなりません。昨年度の赤船祭を超える「感動と涙と笑顔のある赤船祭」にするために、あなたはどのようなアイデアを生徒会に提案しますか。

【ループリック】

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	昨年度の赤船祭の成果と課題を整理した上で、何を変えるべきかを述べている。その提案の中に、「効率」と「公正」の両方の視点があり、2つの視点の定義が明確である。
B（合格）	赤船祭をよりよくしていく提案の中に、「効率」と「公正」の両方の視点があり、2つの視点の定義が明確である。 (提案の裏付けとなる、昨年度の成果と課題の評価がない)
C（乗り越えさせたい実態）	赤船祭をよりよくしていく提案の中に、「効率」と「公正」のどちらかしかない。または、提案内容の視点があいまいである。

(5) 板書計画

**単元名** 仲間とともに赤船祭を成功させよう

**ねらい** 「効率」「公正」の視点を使って、学習課題の解決ができる。

**学習課題** 昨年の赤船祭を超える赤船祭にするためには、どうすればよいだろう。

昨年の  
赤船祭の  
写真など

昨年の赤船祭の  
成果と課題

班のホワイトボー  
ド【提案内容】

班のホワイトボー  
ド【提案内容】

班のホワイトボー  
ド【提案内容】

班のホワイトボー  
ド【提案内容】

班のホワイトボー  
ド【提案内容】

班のホワイトボー  
ド【提案内容】